



江戸道中絵図

# 郷土資料の散歩道

図書館 郷土資料室  
☎21-6111

## 米沢く江戸の街道を描いた絵図

今月は、米沢図書館所蔵の「堀尾家寄贈文書」の中から「江戸道中絵図」二冊を紹介いたします。一冊は米沢から江戸、もう一冊は江戸から米沢までの街道筋を連続的に描いた携帯用の絵図帳です。藩士が米沢と江戸とを行き来する際、参考とするために作成したものとされます。地名や名所には、その由緒が記され、旅のガイドブック的な役目もはたしました。

また、絵は鳥が上空から見たような鳥瞰図的に描かれ、江戸時代の街道や城下・宿駅の様子をビジュアル的に見せてくれる貴重な資料となっています。

## 城下の起点、大町の様子

図1は、米沢城下の大町を描いた部分です。道の真ん中には川が流れ、その上に火の見櫓が建てられています。中央の火の見櫓の左側にあるのが高札場で、切支丹禁令等の法令・掟書を書いた板札（高札）が掲げられています。札の辻と称されたこの場所が、米沢領



▲図1 大町の様子

内の街道の基点となっています。また、武士の住む三の丸への入口（外張）は厳重な構えで、中には番所が描かれています。武士居住の三の丸内と、町人が住む区域は、厳密に区別されていたことがうかがえます。

## 宿場町と街道の様子

図2は、板谷宿を描いた部分です。出入口には木の柵が並び、旅人を監視する関所（番所）がありました。宿場の



▲図2 板谷宿の様子



▲図3 産ヶ沢の様子

中央には藩主が宿泊する「御殿」が描かれています。一般に宿場には大名等が泊る本陣が置かれたましたが、福島（板谷）街道は米沢藩だけが参勤交代で使ったため本陣は整備されず、米沢藩専用の御殿が建てられたのです。

また図3は米沢領と福島領の境界であった産ヶ沢の部分です。木橋が架けられ、その傍らに国界を示す杭が立っていました。

なお、今回紹介した道中絵図二冊は、専門の絵師が描いたと思われる綺麗な道中絵図ですが、現存する道中絵図の中には、素人が描いたであろう拙いものも多く見受けられます。このように美しく詳細な道中絵図は貴重で、時折、道中の宿場町であった市町村から、調査や写真掲載の依頼があります。

PRINTED WITH SOYINK™ R100

この広報紙は古紙配合率100%の再生紙を使用し、大豆油インキで印刷しています。